

山田準 （漢） 漢學者。慶應二年十一月二十一日備中國生乳、昭和二十七年十一月二十一日歿（二八七—九五）。舊姓木村、字上表。號濟齋。濟齋道人、濟齋陳人。東京大學文學部古典講義所漢書科卒。第五高等學校、第七高等學校各教授を經く、昭和二年、（一）松學全專門學校校長となる。

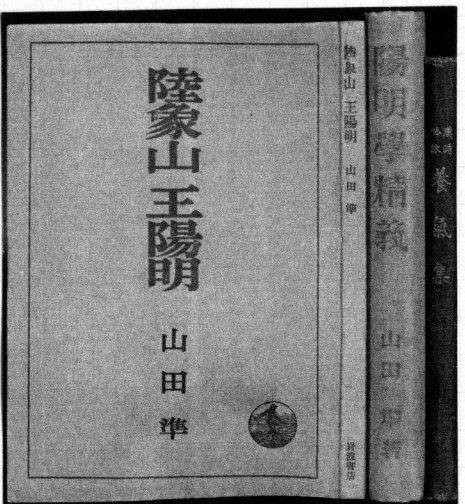
著書に『十八史要讀本』（箋註、明治二十六年一月九日益友社）、『方谷先生年譜』（大正五年二月二十日岡山縣内務部）、山田明遠著『知足齋詩鈔』（輯、昭和五年十月八日旬刊）、（漢詩）『吟詠養氣集』（輯、昭和六年十一月二十日山田琢刊）、（一）松學舎出版部・松雲堂書肆發賣）、佐藤一齋原録・秋月古香偶評『山田郷南洲先生手抄』、『皇志録』（譯及輯、昭和七年十月二十日埼玉縣教育會）、佐藤一齋著『皇志四録』（五子安二郎共譯註、昭和十年六月二十日岩波書店「岩波文庫」）、『孫子』（阿多俊介共譯註、昭和十年十一月二十日岩波書店「岩波文庫」）、

『日本名詩選』（昭和十年十一月八日章華社）、（修養）『清話』、『皇志録』と陽明學』（昭和十一年八月二十五日主張社）、『傳習錄』（鈴木直治共譯註、昭和十一年九月二十日岩波書店「岩波文庫」）、『評釋千字文』（安本健吉共註解、昭和十二年十一月十五日日岩波書店「岩波文庫」）、

大鹽中齋著『洗心洞劄記』（譯註、昭和十五年五月二十八日岩波書店

「岩波文庫」）、『濟齋詩鈔』全一冊

（昭和十五年十一月二十日山田琢編輯）、『陽明學精義』（昭和十七



年十一月五日金鈴社）、『陸象山王陽明』（昭和十八年二月十五日岩
波書店）、『日本名詩選精講』（昭和十八年二月二十日金鈴社）、『勤
皇烈志』（學久）（合著・東京新聞社編、昭和十八年八月二十一日建設
社）、『南洲百話』（昭和十九年二月五日金鈴社）等。